

線命生の國帝=蒙滿れ守

(特別短期講座 (近代史 明治から昭和へ)

マスメディアの発展

～「朝日新聞」と「講談社」～



KING

雑誌界始まる大壯観

出た! 新雑誌 キング

面白く! 日本一為になる! 新創刊



素晴しく四大附録つき

社談講會群雄本日火山所元發

日本民族の血と汗の

結局! 特殊權益

断として侵害を許さず

南滿洲鐵道經營

關東

何故日本は起つた?

滿洲事變導火線

權益蹂躪と排日

この暴民の事實を見よ

遠因

誘因

局送放京東

はじめに～マスメディアとは

メディア = 「媒体」 「情報を伝えるための仲立ちをするツール」

送り先

メディア

受け手

メディアの発展と多様化

身振り手振り → ことば → 記号・絵・文字
→ 印刷物（本・新聞・雑誌）
→ 電信・電話・映画・ラジオ
→ テレビ → インターネット

マスメディアとは

マス（「巨大」「大衆」） + メディア（情報の媒体）



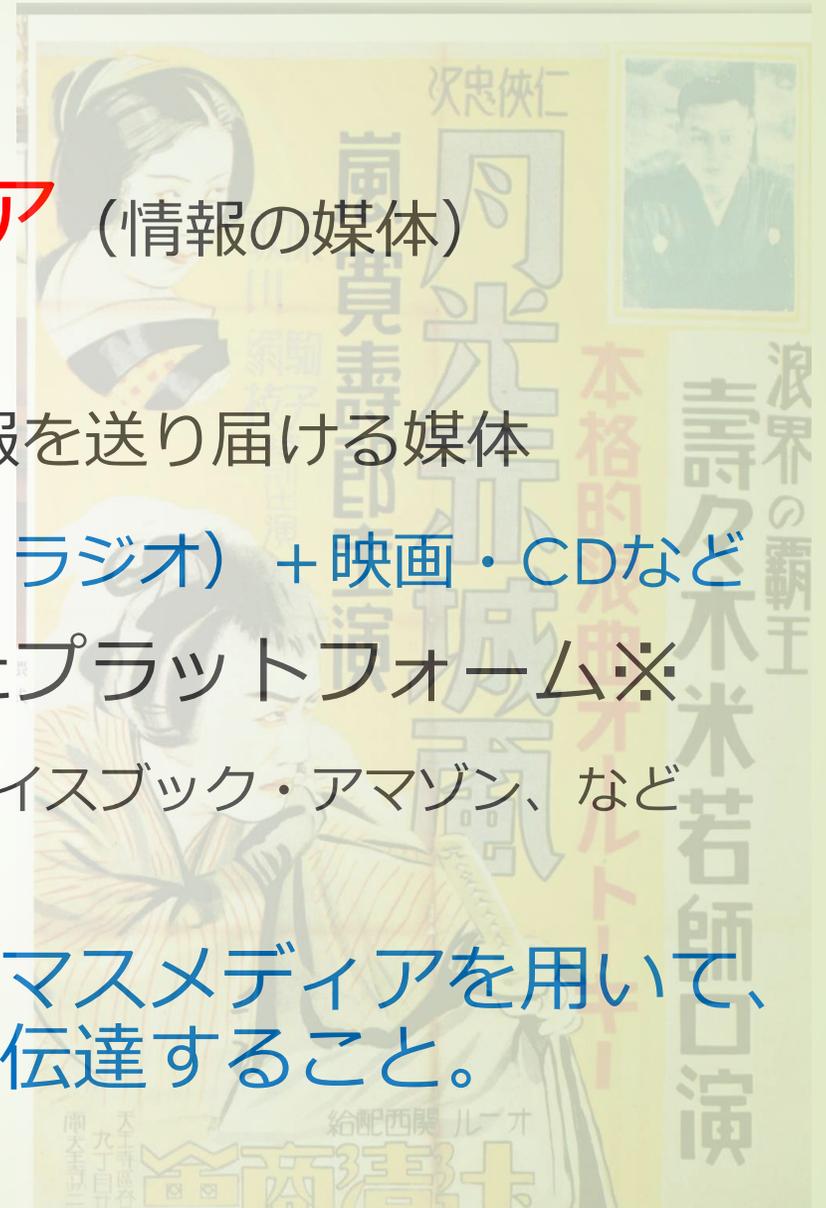
マスメディア = 大衆に向けて膨大な情報を送り届ける媒体

（四大メディア = テレビ、新聞、雑誌・書籍、ラジオ） + 映画・CDなど

→ インターネットネットを利用したプラットフォーム※

※GAFA = グーグル・アップル・フェイスブック・アマゾン、など

※マスコミュニケーション（マスコミ） = マスメディアを用いて、不特定多数の大衆（マス）に大量の情報を伝達すること。



I、メディアと権力～「朝日新聞」を中心に～

メディアの重要な機能 = **ジャーナリズム**

「時事的な問題の報道・解説・批評などを伝達する活動の総称。また、その機関。」



「マス」化すると共に大きな影響力を持つ

「第四の権力」



国家権力とのさまざまな駆け引き

「対立」と「相互依存」



朝日新聞東京本社

期待されるメディア像～新聞印行条例（1869明治2）

一、各箇の新聞は宜しく各箇の表題あるべし

一、表題を以て開版免許の上は毎号検印を受くるを要せず。只出版即日二部を官に納むべし

一、各号毎に出版の所年月日編集人もしくは出版社の姓名及び各号の号数とを載すべし

一、凡記載する事件に付て吟味すべき事ある時は編集人その弁解を為すべし。

もし弁解なき者は罰金を出さしむ

一、一切天変地異物価商法政法（不許妄加批評）軍事（其説錯誤而不改者有責）火災嫁娶生死学芸遊宴衣服飲食諸種官報洋書訳文雑話凡事無害者は皆記載すべき

一、贈答書牘或は各人作る所の文もしくは雑説等其姓名を註す（只だ歌詩の内作者不詳者はこの例にあらず）

一、新聞紙中人罪を誣告する事厳禁なり

一、妄りに教法を説くことを許さず

「期待されるメディア像」～新聞印行条例をみる！

記載すべきこと（「みな記載すべき」）

- ①「天変地異」 ②「物価」 ③「商法」（商売のやり方）
- ④「政法」（法令）※ただし、みだりに批評してはいけない
- ⑤「軍事」※「まちがったこと」を記し改めないときは責任を問う。
- ⑥「火災」 ⑦「嫁娶」（結婚報道） ⑧「学芸」 ⑨「遊宴」 ⑩「飲食」
- ⑪「官報」 ⑫外国の書物の翻訳（「諸種洋書訳文」）→のちには制約を強める
- ⑬「雑話」とくに害のないもの

記載してはならないこと

- ①新聞に、故意に事実を偽って人を告発する内容（「人罪を誣告する事」）
- ②「教法」

事件・アミューズメント・グルメ・恋愛そして「お役立ち」情報

のちには、事実でも処罰される！（讒謗律）

キリスト教？

「新聞紙印行条例」にみえる政府の姿勢

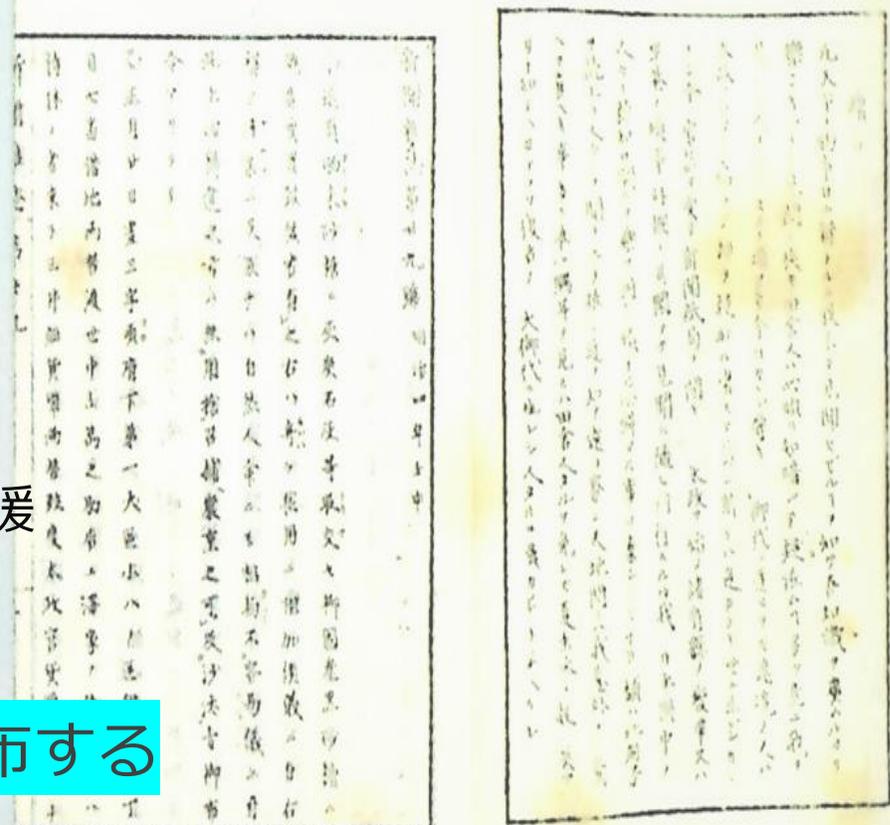
政府も新聞は発行してほしい！

- 政府自身も前年に「太政官日誌」を出版
- 「新聞雑誌」のウラの出版者は木戸孝允
- 日本最初の日刊紙「横浜毎日新聞」は神奈川県が応援
- 東京日日新聞は「太政官御用」の官報の性格

政府が四紙を大量購入→各府県に四部ずつ配布する

でも、いやなこと、変なことは書くな！載せるな！

→そんなことをすると痛い目にあわせるからね！



二つのタイプの新聞～大新聞 (おおしんぶん)

大新聞・社説を掲げ天下国家を論じる。論説中心の政論新聞

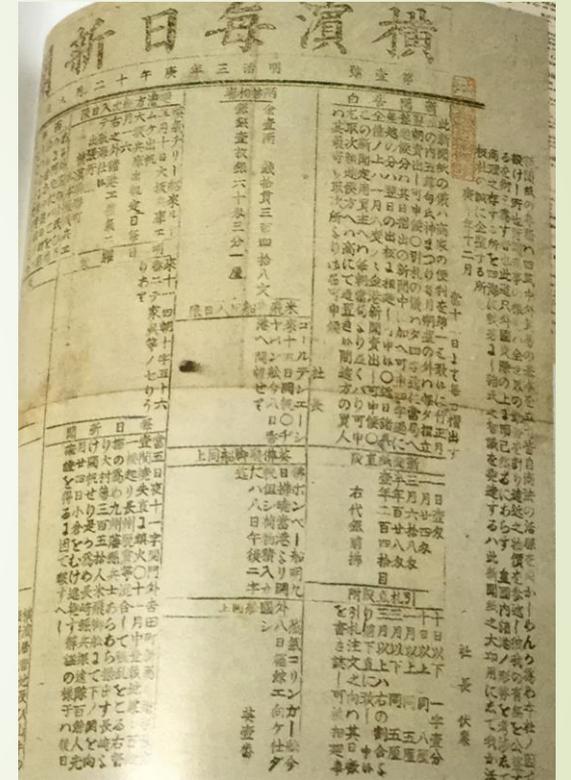
- ・ふりがなを振らず、文語体
- ・記者：政治家・洋学者・漢学者・漢詩人。元官吏・書生
- ・対象：中等以上ノ人民=知識人・官吏・学者・大人男子

「政府御用」ないし批判的。経営者・編集方針により一変も。

→記者と政治家の距離間の短さ

政党機関紙や系列紙/御用新聞

→独立新聞 (時事新報・日本・国民新聞) へ



日本最初の日刊紙
「横浜毎日新聞」創刊号

二つのタイプの新聞(2)～小新聞

小新聞

日常生活の情報や花街の評判、面白い読み物

社説は掲げず、政治記事は極めて簡単（→避ける）

すべてにふりがなをふり、口語体。絵も多用（絵が中心の新聞）

記者：戯作者・狂言作家・俳人・歌人・狂歌師。（市井の文化人・**教導職**も）

対象：「下等社会」中流以下の市井人、教養あり文学を好む人、婦人少年

文明開化の立場に立ち、旧来のものを頑迷・旧弊として嘲笑することも

「勸善懲悪の趣旨を以て、もっぱら俗人婦女子を教化に導く」

神々や天皇・国家を敬う意識を育て国家神道を促進する半官半民の役職。落語家なども採用。あわせて家族倫理、文明開化、国際化、権利と義務、富国強兵などを説き、国民教化をすすめた。

朝日新聞の発刊

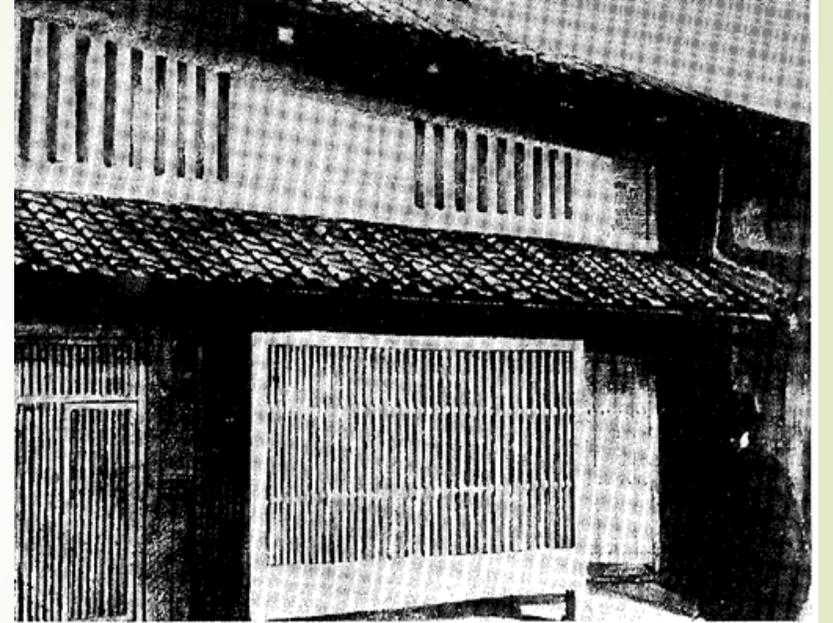
～明治12（1879）年1月25日～

その日は、大阪の人々が氏神のように思っている天満天神の初天神にあたり、さむいが、よく晴れた日であった。若手俳優として人気ではじめていた初代中村鴈治郎が、宝恵駕籠をつらねて、この祭りに乗り込み、その帰りみち雑踏の中に立って、朝日新聞創刊のチラシを人々にくばった。

（中略）

創刊号は、いまの新聞の三分の一ぐらい、ページ数もわずかに四ページのそれこそチラシ程度の大きさだったから、鴈治郎のくばったのは、無料配布の創刊号だったのかもしれない。

（朝日新聞社史 明治編）



明治12年1月、朝日新聞社最初の社屋。当時の住所は大阪府第三大区一小区江戸堀南通1丁目7番地。

最初の朝日新聞社社屋

「朝日新聞」発刊～「発行願」から

創刊：1879年1月25日大阪市江戸堀で創刊。

出資者：木村平八（醤油製造業）

木村騰のぼる（平八の子・発案者）

名義上の所有者：村山龍平（西洋雑貨商・平八の共同経営者）

主筆：津田貞（もと大阪新報主筆）

発刊の趣旨：

「勸善懲悪の趣旨を以て、もっぱら俗人婦女子を教化に導く」

典型的な小新聞として
発刊された。

朝日新聞の創刊 創刊号の紙面

①官令

平仮名表記、ふりがな

②大阪府官令「大阪府録司」

挿絵入り

③「雑報」

総合欄 = 政治・経済・外電・社会・学芸・娯楽など
 ニュースや読み物

天皇皇后御製、芝居評判記、寿司屋の娘の美談(2面の2/3)
 天満宮発天神宵祭りの記事、落語家の家に入った泥棒の話、
 編集長の挨拶

④「寄書」(投書欄) ライバル紙「大阪日報」からの祝辞

薬屋と本屋が
 お得意さん

⑤「相場」(経済記事)

⑥「広告」...薬屋の広告(売薬の効能書き)



朝日新聞の発刊～発展と危機

順調な売れ行きをみせる

- ① 一円一銭、月決め最安値
- ② パフォーマンスと販売店の組織化
- ③ 読者の喜ぶ誌面作り

経済記事・伝染病対策・政治に関する情報（議会議事録）

下品さを嘆かずにはいられない。家族そろって読める新聞にしてほしい。（読者の投書より）

+ 「変態的」な読み物

内部問題の深刻化

- ① 経営者・木村騰の行状→負債の増加
- ② 編集側津田貞と経営側木村親子の対立

→津田一派の退社・ライバル紙（「魁」の発刊）発行

→③経営不振への転落

「中立新聞」の誕生～ヤ三資金の獲得

1881 (M14) **村山龍平**、木村家から経営権を継承
→**村山・上野 (理一) 体制**の成立

村山龍平 (1850～1933) 伊勢国田丸生まれ。紀州藩の旧士族。維新後、士族をすて、大阪で商業に従事、西洋雑貨商をはじめ。共同経営者でもあった木村平八の頼みを聞き、朝日新聞の経営にあたり、同社を大新聞に育て上げた。

1882 (M15) **政府の資金提供**をうける



村山龍平

- ①朝日新聞が三井銀行から資金 (1万5000円) を借り入れ、その返済を政府が行う。
(毎月500円)
- ②政府が三井銀行に資金 (1万円) を提供、朝日新聞株を購入させる
(「小野十作」名義)

政府と「朝日」の密約のひな形？

第1条 ○○○○社はもっぱら政府の趣旨を体認し、つとめて官民の調和を図るを目的とすべし

第2条 もし内外の諸新聞に政府の発令または処分の趣旨を誤認し衆疑を扇動するの論説記事を掲載したる時は○○○○社は社説または記事をもってその誤妄を弁駁するをつとむべし

第3条 政府の発令または処分に於て○○○○社の意見とまったく相反することあるとき○○○○社はこれを黙過するを得べしといえども反対の意見ある論説記事を掲載することを得ず。

第4条 ○○○○社は政事新聞の名を避け、つとめて通俗に近きを要しこの内約を秘密に守るべし。

(以下略 原文はカタカナ表記、また漢字も適宜かな表記とした)

山県有朋の危機意識

新聞や雑誌の報道は、ほぼすべて慷慨（※世間の悪しき風潮や社会の不正などを、怒り嘆くこと）激烈を主とするもので、政府を攻撃し朝廷の名譽を傷つけようとし、無頼のものたちがわれさきにアメリカやフランスの「亡国の書」を読んでこれにしたがっています。

ややもすれば民権といい、自由と称して朝廷をあなどり、驕り高ぶりって秩序にしたがわないことを誇り、邪説を説き暴行に至らないところはありません。世間の無知な人々はこれに心を動かされ、ついには朝廷の意向や政府の方針もさとらず、慷慨激烈の説に幻惑され、不逞の徒とならないものがない状態です。

（山県有朋「官報発行の件」の前半を意識）



山県有朋

当時の新聞を描いた風刺画
当時、民権派の新聞と政府の援助を受けている御用新聞が激しく争っていた。

なぜ「中立」新聞育成なのか

◎大坂に、一の半官新聞を置くべし（中略）政府より補助金を与え、社長を認可し、社説において、**政府の政令に異見を抱くときは、沈黙の自由を得ることを許す。**

（井上毅「人心教導意見書」1881）

※原文はカタカナ表記

新報は官報を経とし私報を緯とす。（中略）

私報とは何ぞ。政府ひそかに私社を助けて新紙を発行せしめ、**私報をもって輿論を争う**ものをいう。（山県有朋「官報発行の件」）

私報をもって輿論を

※原文はカタカナ表記



井上毅

1882年から1894年にいたる政府の朝日新聞に対する秘密補助と秘密出資は、この時期における「不偏不党」新聞の政治機能を如実に示している。「多事争論」的状况において「不偏不党」新聞は、**過熱した政治関心を冷却し、「多事争論」を秩序化する機能を果たしていった。**とくに、**自由民権派の反政府言論に対し「中立を仮粧」する立場から批判を浴びせ、民権派言論の沈静化を促進していったのである。**また『朝日新聞』は、この間「勸善懲悪」を主唱する小新聞から「中正」な報道を売り物にする大新聞に脱皮し、営業的にも大きな成功をおさめていった。（有山輝雄「『中立』新聞の形成」）

「朝日新聞」の「中新聞」化と東京進出

「中新聞」 = 大新聞と小新聞の中間

報道重視の政治面 + 日常的な記事

速報性とビジュアル重視



1883(M16)大阪トップ、全国最大の発行部数に



1888(M21)「めさまし新聞」を獲得、

「東京朝日新聞」と改称

自由党系の小新聞、もとの名は「自由燈」

これまでの朝日新聞は大阪朝日新聞に



東京朝日新聞・第一号

朝日新聞の戦略 ～営業新聞・報道新聞として

- ・ 販売拡張...売捌店への働きかけ = 値引き・無代紙による販売拡張
- ・ 広告主への配慮
- ・ 印刷部門の充実...最新鋭の輪転機の導入
- ・ 著名な言論人の引き抜き (池辺三山入社 → 「大新聞」の要素を強化)
- ・ 報道強化 = 「政論」より「報道」「速報性」「わかりやすさ」を重視
- ・ 現場主義...特派員を派遣しての現地取材 → 戦争報道などで優位に
- ・ スピード感...電報を用いて「憲法」の全文を号外として流すなど
- ・ 文化面の充実...新聞小説など (夏目漱石など人気作家の入社)
- ・ 勸善懲悪的わかりやすさ → ポピュリズムの性格も (ナショナリズムとの強い親和性)



主筆・池辺三山

社会面の充実 = 新中間層の増加に対応

花柳界を中心にした面白おかしい記事（軟派）



さまざまな出来事を対象に

ハレー彗星の接近・皇室記事・社会労働運動・外国人に聞く

当時、人気が高かった万朝報と二六新報は政治家や上流階級の暴露記事で人気を博していた。

広い社会性を持ちつつ、**過度な暴露には至らない程度の刺激性**をもつ
家庭の日常品としての新聞記事をめざす

→社会面で扱う政治記事と、政治面で扱う政治記事の出現→対立

「戦争」と朝日新聞（「社史」の見出しから）

第7章 日清戦争で部数躍進

厳重なる新聞統制 はじめての写真銅板付録

3. 戦局の展開と特派員の労苦

苦難の従軍行、西村時輔の死、通信連絡に苦心

・三国干渉：大朝・発行停止さる、大朝・号外戦で制覇

第9章2.北清事変おこる：三山・出兵を主張、国際的スクープ

第10章 終始、対露強硬を主張

三山強硬論を唱える、軍・報道検閲を開始、社内規定を作る

3. 日露開戦で特派員の活躍

大特ダネの芝ふう便、号外戦も火ぶた切る

戦死者家族訪問記、朝日に初の写真、記者に初の戦死者

5. 講和条件に反対

とどかぬ特電、論調一変・桂を非難、東朝の発行停止



明治37年9月30日の東京朝日紙面に載った朝日はじめての写真。遼陽戦の写真で撮影は上野岩太郎特派員。

日比谷焼き打ち事件

ポーツマス講和条約...日露戦争は報道統制のため戦勝報道ばかり
→締結内容では、領土的要求ももらえず、賠償金も手に入らない

↓
朝日新聞...村山社長の判断で条約反対の社論に決定
→他の新聞とともに反対キャンペーンを展開

民衆暴動（日比谷焼き打ち事件）に発展

明治末期の都市社会は、一方で工場労働者・書生というかたちで**单身若年層が流入**し、また他方で**伝統的町民の生活と文化が崩れていき**、**住居条件・労働条件などが立ちおくれるなど不安定さ**を抱えていた。そこに**蓄積された社会的不安・鬱屈**は攪拌され、点火されると焼打などとなって爆発しやすい状況であったのである。(有山輝雄)



「二十九日の講和談判会見に於て成立したる条件は一切日本の譲歩のみ……」という書き出しで始まる全文を黒枠でかこみ、社説は「屈辱的な条件」としてその破棄を要求した。「白骨の涙」の絵はサレコウベが泣き、軍刀はむざんに折れている。激越な内容の紙面でもよく見られる。明治30年8月29日付。

新聞が民衆暴動を主導する？

- 1905 日比谷焼打事件以後、
新聞各紙「閥族政治」「憲政擁護」のキャンペーン
→これに導かれるように民衆暴動が頻発
- 1912 第一次護憲運動
→第三次桂太郎内閣退陣へ（大正政変）
- 1914 ジーメンス事件
→山本権兵衛内閣退陣



新聞キャンペーンが語るのは、「腐敗宰相」「閥族」などの悪玉を正義の「国民」あるいは新聞自身が懲らしめるという一種の道德劇であった。

そこでは「閥族」などに対し読者の道德憤慨・正義感が爆発するが、そのエネルギー源となっているのは日常的生活の中で蓄積されているさまざまな不平・不満であった。

(有山輝雄)

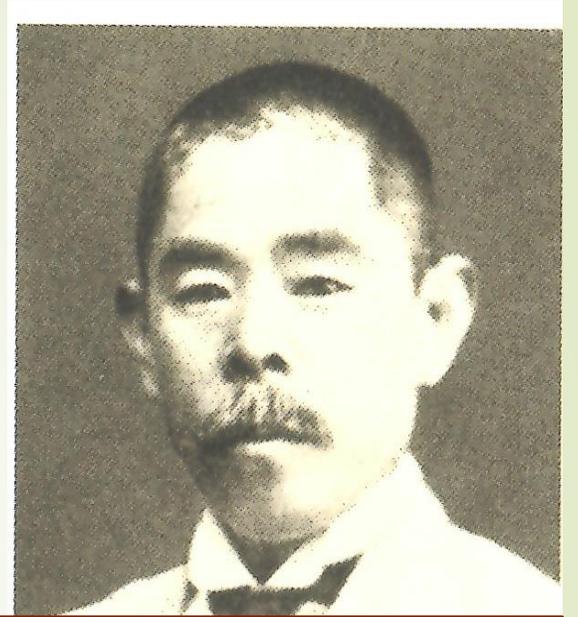
大阪朝日新聞～鳥居素川主筆抜擢

大阪朝日新聞→閥族政治批判、民本主義や社会政策の実施などを強く要求

シベリア出兵反対、ロシア革命に同情的な紙面

鳥居素川を主筆に抜擢（政論紙「日本」出身）

+ 長谷川如是閑・大山郁夫ら



国内... **民本主義的潮流**の高まり（「内に民本主義、外は帝国主義」）
労働運動や社会運動の活発化→社会主義運動の復活へ
世界... **ロシア革命の発生**（**ロシア帝国の崩壊と社会主義政権成立**）

村山社長... **営業方針としての「反権力的」**？！



政府側（寺内首相・後藤内相ら）、危機感をたかめる

米騒動の発生

第一次世界大戦

- 大戦景気による都市人口増加
- 食糧不足による価格とくに**米価上昇**
- シベリア出兵の報道

7月以降 富山の漁民らの暴動の広がり

8月以降 富山の漁民らの暴動激化

8月4日 地方紙の本格報道はじまる

8月5日 大阪朝日・大阪毎日が富山の暴動を報道

8月10日 大阪朝日・岡山における暴動を報道

8月11日 大阪朝日が10日の**京都での暴動を報道**

8月12日 大阪での暴動が本格化→連日、報道

米騒動の全国化 神戸・名古屋・東京などへ拡大

→8月下旬 工場や炭鉱での暴動に

◆一揆米屋を襲ふ

魚

●女房連の一揆

●女房一揆擴大す

昨報の如く下新川郡魚津町下新獵前町の貧民は生半を惹起さんごて廿日未明に集合せしめて、富山縣下一帯に昨今物價騰貴の爲めに貧民の窮狀甚だしく殊に北海道澤太等へ出稼せる漁夫町にて一層慘澹たる有様あり過般來魚津滑川、水橋等の町には何となく一揆の起るらしき不穩の氣分瀰り居たるが三日午前七時頃中新川郡西水橋町に大暴動蜂起せり

●右は同地漁夫の女房連三百餘名同時刻に海ありし爲め彼等も一時居りしが、如何感じけ、日夜一同鳩首密議を凝らして數組に分れ魚津町商店に殺到し此際米を品

富山縣下新川郡西水橋町にては三日女軍の集團を組織し一揆を起したるは既報の如くなるが同郡東水橋町は川一つ隔つるのみにて西水橋町と同じく住民の多數は漁業に出づ、あるが本年は不漁の爲何れも貧困に陥り西水橋町に於て女軍が一揆を起せるを聞知するや何となく不穩の氣分瀰りし

●四日午後四時に至り誰云ふもなく同町民六七百名の女房及び娘連中同町海岸に集合し期せずして山崎同町長の自宅を襲ひ以下の窮狀を陳情し之が應策を迫りたるに同町長は何等かの方法を講ずべく慰撫したるに就き一同其儘引揚げそれより同町町會議員及び有志の自宅を戸別のに訪ひつゝ示威的に窮狀を陳じ更に午後八時より米の所有者を麻訪して今日

の如く米高を見るに至れるは波等の所爲なりと聲を吐き石瓦を投げ戸障子を破壊す

●暴行の被害最も甚だしきは同町字新上町米穀商高松長太郎方にて同家には千俵餘の女米を有し居れば集團は之を他に賣らざる事を懇請せし同家の妻は自分方は貯蓄なれば賣るゝ賣らざるは自分の勝手なりと答へしかば集團は非常に激昂し曾ては食までなし居りしものが生意氣なりと聲を吐きしが更に妻は米が高くて生きる事出来ざれば死すべしと聲に隔ゆるに暴言を以てせしかば集團は顯微を舉げ戸障子器物を破壊し家

陸タイムス

1918 (大正7) 年8月6日付け『大阪朝日新聞』

騒動の全国化～岡山・京都

●米穀取引所を襲撃す

岡山における立會後の椿事

隊を組んで押かけ負傷者多数

岡山精米會社の特等白米は暴騰又暴騰遂に五十圓七十錢となり市民一般慘澹たる状態に陥りたる折柄岡山市内山下吉田石蔵(定軒) 森下町水澤三太郎(定軒)等は十数名の若者を語らひ隊を組みて九日午

●京都柳原町民

大舉して米屋を襲ふ

喊聲をあげ大石で表戸を破壊す

前九時半岡山米取引所に押しかけ立會の終るを待ち客筋及び仲買前に待伏せ貧乏人の仲買人等に喰つてかゝり客筋名の群集喧嘩の渦に絶叫しアハアアア及ばん駐在巡查を召集鎮め前記兩名の進行(可なり)

京都にては九日終に米價五下錢を突破し市内の細民は全く生活の安否を失ひたるが十日夜九時新市街下京高柳原町民の一部女小供まで打ち混りて約四百名はワイワイミミの聲を打ち揚げて一團となりて七條高瀬西へ入る米穀商山崎一助方の店先へ押し寄せたれば同店にては素直に米を賣るに聞かざりて表戸を閉ぢ燈火を打ち消したるに米家は喊の聲と共に同家の街燈を打ち落したるを手段として次第に前記のノケリ師匠を打ち外し遂に表戸を押し形勢益々不穩となりたる時恰も急變に接したる所第七條より隊が

遂に軍隊出動す

歩兵約百名騎兵五十名

第三十八聯隊の歩兵約百名は廣間中尉引率の下に十時十分警門を出發し騎兵第二十聯隊約五十名は柳瀬少尉に指揮され十時十五分出發せり尙伏見憲兵分隊よりも全部出動せり

七條署の警戒線

暴民に突破さる

全市到る處暴民に襲はれ已むなく警戒線を變更す

九時四十分柳原町の細民百餘名は鐵小路通りを東西に警戒したる七條署の警戒線を突破し岡山公園に向はんこし茲において稻藪竹藪の如く固めたる七條署の警戒線は全く暴民のために形もなくなり踏破されたること七條署にては所定の警戒を變更するの止むなきに至り大混亂を呈し來れり之より先午後九時七條署には京都地方裁判所檢

事局より山本首席檢事、小山、原田兩檢事等出張し拘引者を取調中なりしが既に同署の警戒線が右の如く脆くも破れたるに今や京都全市は到る處暴民の襲ふ處となりて是が警戒指揮の爲には同署の位置は南方に失するより之を京都府本部に移すべく協議をなし各警察署への連絡は自動車二臺にて鐵橋に駆け廻り居れり

在阪部隊 全部出動す

歩騎砲輜重の諸隊
全市の大警戒に任ず

十三夜に於て、大阪市内の諸隊、悉く出動して、市内の各要所を警戒し、市民の安全を確保す。歩兵、騎兵、砲兵、輜重隊、各隊が、市内の各要所に展開し、市民の安全を確保す。歩兵、騎兵、砲兵、輜重隊、各隊が、市内の各要所に展開し、市民の安全を確保す。

日本橋筋の放火

襲はれたる長谷米商
竹槍隊と軍隊の衝突

日本橋筋の放火は、長谷米商の店に襲はれた。竹槍隊と軍隊の衝突も発生した。市民の安全を確保す。歩兵、騎兵、砲兵、輜重隊、各隊が、市内の各要所に展開し、市民の安全を確保す。

活動館へ 放火す

千代田館は
千代田館は、活動館へ放火された。市民の安全を確保す。歩兵、騎兵、砲兵、輜重隊、各隊が、市内の各要所に展開し、市民の安全を確保す。

警察本部 に押掛く

重砲隊の目的
警察本部に押掛く。市民の安全を確保す。歩兵、騎兵、砲兵、輜重隊、各隊が、市内の各要所に展開し、市民の安全を確保す。

各戸消燈

多数の重砲隊を出す
各戸消燈。市民の安全を確保す。歩兵、騎兵、砲兵、輜重隊、各隊が、市内の各要所に展開し、市民の安全を確保す。

神戶市にても 軍隊に抵抗

群衆は三隊に分れて
軍隊に抵抗。市民の安全を確保す。歩兵、騎兵、砲兵、輜重隊、各隊が、市内の各要所に展開し、市民の安全を確保す。

宗右衛門町心 齋橋筋を元

歩兵隊は
宗右衛門町心、齋橋筋を元。市民の安全を確保す。歩兵、騎兵、砲兵、輜重隊、各隊が、市内の各要所に展開し、市民の安全を確保す。

運轉不能 の兵士と衝突

名を兵士と衝突
運轉不能の兵士と衝突。市民の安全を確保す。歩兵、騎兵、砲兵、輜重隊、各隊が、市内の各要所に展開し、市民の安全を確保す。

五六名 の兵士と衝突

名を兵士と衝突
五六名の兵士と衝突。市民の安全を確保す。歩兵、騎兵、砲兵、輜重隊、各隊が、市内の各要所に展開し、市民の安全を確保す。

放火せん 大臣邸を警戒す

鈴木商店女主人避難
大臣邸を警戒す。市民の安全を確保す。歩兵、騎兵、砲兵、輜重隊、各隊が、市内の各要所に展開し、市民の安全を確保す。

一箇大隊 更に姫路 より派遣

和歌山では
一箇大隊、更に姫路より派遣。市民の安全を確保す。歩兵、騎兵、砲兵、輜重隊、各隊が、市内の各要所に展開し、市民の安全を確保す。

尼崎市騒 約四十名引

多額納税者
尼崎市騒、約四十名引。市民の安全を確保す。歩兵、騎兵、砲兵、輜重隊、各隊が、市内の各要所に展開し、市民の安全を確保す。

米騒動～大阪・神戸へ

●鈴木商店へ放火

殺氣立つた神戸の群衆

喊聲をあげて警官隊を突破し瓦礫を投ず

神戸市には十二日夜も不穏な
らん。氣遣はれたるに果せる故目
没頭より、湊川遊園地を指して押
掛け来るもの數千
午後七時頃には既に喊聲を
擧げて殺氣刻々に
迫り来れり

此に於て縣には群衆無の
法として知事は救急の方法を講ず
る事としました外米は頗る多きを以
て安心すべしといふ掛札を
數箇所に立てたるに群
衆は忽ち之を撤去し其を動機にワ
ッこばかり動搖めきヨシヨク
ミ東を指して出動し始めたり

群衆は數隊に分れ各方面に向ひ
所在の米屋を脅かし其主力
數千名は鈴木商店
に押寄せ閑聲を上げて示
威運動を開始せり

●鈴木商店は、神戸市に於て、米騒動の中心となつた。十二日夜、群衆は鈴木商店に放火し、殺氣を帯びた。警官隊を突破し、瓦礫を投げつけた。群衆は、米屋を脅かし、米を奪取した。鈴木商店は、米騒動の中心となつた。十二日夜、群衆は鈴木商店に放火し、殺氣を帯びた。警官隊を突破し、瓦礫を投げつけた。群衆は、米屋を脅かし、米を奪取した。



1918 (大正7)

打ち壊して屋内に闖入して内
側より戸を開きて
群衆を招き入れた
ればドツと鬨の聲
を揚げつゝ一同流
れ込み手當り次第
に帳簿諸道具を投
げ散したる後裏に
表の二箇所に火を
放ち一時に燃り上りたれば所
警相生衛署にては直に消防隊を繰
り出し消防に盡力中なるも同家屋
はもこみカド・ホテルの宏壯なる
三階建てに炎々ど燃ゆ
擴がり柱や棟木の
倒れ落つる毎に群
衆は喊聲をあげて
打ち離せり同商店附近
は三菱銀行神戸銀行集會所神戸
電話局 神戸商業會館等の大
建築物あり其混雜
名状すべからず

1918 (大正7) 年8月13日付け『大阪朝日新聞』

重砲隊の目的
警察本部に押掛く。市民の安全を確保す。歩兵、騎兵、砲兵、輜重隊、各隊が、市内の各要所に展開し、市民の安全を確保す。

各戸消燈
多数の重砲隊を出す
各戸消燈。市民の安全を確保す。歩兵、騎兵、砲兵、輜重隊、各隊が、市内の各要所に展開し、市民の安全を確保す。

神戶市にても
軍隊に抵抗
群衆は三隊に分れて
軍隊に抵抗。市民の安全を確保す。歩兵、騎兵、砲兵、輜重隊、各隊が、市内の各要所に展開し、市民の安全を確保す。

大臣邸を警戒す
鈴木商店女主人避難
大臣邸を警戒す。市民の安全を確保す。歩兵、騎兵、砲兵、輜重隊、各隊が、市内の各要所に展開し、市民の安全を確保す。

一箇大隊
更に姫路
より派遣
和歌山では
一箇大隊、更に姫路より派遣。市民の安全を確保す。歩兵、騎兵、砲兵、輜重隊、各隊が、市内の各要所に展開し、市民の安全を確保す。

尼崎市騒
約四十名引
多額納税者
尼崎市騒、約四十名引。市民の安全を確保す。歩兵、騎兵、砲兵、輜重隊、各隊が、市内の各要所に展開し、市民の安全を確保す。

1918 (大正7) 年8月14日付け『大阪毎日新聞』 号外

寺内内閣による報道差し止め命令 8月14日

寺内内閣、暴動記事の掲載禁止命令

↓
8月15日 白紙だらけの大阪朝日新聞

水野内相は十四日午後九時都下新聞通信社員を内務省に招致し小橋次官、永田警保局長、添田地方兩局長列席の上米騒擾問題に關する各地騒擾記事一切を掲載せざらんことを要請したるが内相は先づ富山縣下漁村の騒擾より説き起し關西各地の騒擾が遂に帝都にまで波及したるを遺憾とし一體斯の如き事件は知らずの間に傳染して無辜の良民が一時の心理作用により遂に暴徒の禍を買ふ者少からざるは最も遺憾とする所なり當局としては之に對し最も温情を以てするも治安維持の上には又止むを得ざる場合ありサレバ刻下の急務は此騒擾の傳播を防ぐにあり斷つて思ふに新聞紙の記事は社論に報道に素より其任務とする所を努めつ

各地暴動記事 掲載禁止さる

十四日夜水野内相は
各新聞社に對して
米一揆記事差止め
已むを得ざるを説く

よれば其言論を壓迫し報道を阻害するは當局の最も遺憾とする所なるも各地騒擾の情況を手に取る如く報道せられ或は寫眞に或は標題に或は其大活字の使用に依り社會人心を暖る事幾許なるかを思へば當分の開目を閉ちて其取締に任する亦已むを得ざるなり故を以て明日以後今回の騒擾に關する一切の報告を掲載する事を禁止し又社論に於ても各地の騒擾に就き待に事件の實質を細かく叙述する事を禁止する事せり若し違背する者の時は已むを得ず發賣頒布禁止處分に出づべし當局の此處置は全く已むを得ざるに出づ諸君に於ても今後此騒擾の傳播の眞に憂ふべきを思ひ當局の意のある所を諒せられん事を望む云々(述べたり(東京電報))

1918 (大正7) 年8月15日付け『大阪毎日新聞』



大正7年(1918年)8月15日付大阪朝日社会面。政府は14日、米騒擾に関する報道をすべて禁止した。大朝はその通達を15日午前零時に受けたが、紙面を作り替える時間はなく、止むを得ず、応急措置として鉛版を削ったので紙面は見るも無残な姿となった。トップに初号活字で、寺内内閣は米騒擾の一切の記事掲載を禁止せり、と報じ、憤懣の意を表した。

記事差し止めのためにたいする抗議

新聞各社・記者、「報道の自由」を主張し
政府に抗議

- ①新聞社から内務省への申し入れ
→実質的に差し止めを中止
- ②抗議集会の実施

春秋 會對内相交渉願末 暴動記事の事實上解禁

▲内相再回答 記事差止めに就て

新聞記事差止事件に對する春秋會の再度の交渉に對し十七日水野内務大臣は前日交付したる覺書に依る事し内務省より最後の公報午後十二時發表以後の出来事に就ては新聞社の當識に訴へ誇張若くは煽動に涉らざる程度に於て記載するも差支なき旨を回答したり

▲事實上の解禁 差止記事

答ありたるも春秋會にてはこれを不満とし同日午後三たび内相を訪問して交渉し其の結果愈左の如き覺書を取りて引取りたり右に於て春秋會對政府交渉は茲に落着きたる譯にして先日來の米價問題暴動記事差止は事實上解禁を見たる次第なり

一、米價騰貴に依る各地の騒擾に關する記事は公報及び公報を基礎としたる事實を掲載する事一、公報以外の記事は雖も事實の報道にして誇大に及らざるものならざるものに就ては掲載を禁止するの趣旨に於ては唯事實重大なるを以て其掲載方に就ては十分の注意を要す

新聞の繼に映り、一般に展開され、影響するものは、濟すものは濟す、興に人類共存の目的を達するのである。然るに現内閣は、一切之に關する記事は既に事實其理由に「今日の事實は既に事實其ものが治安の妨害になる」からたミ水野内相は語つて居る。事實は勿論治安を妨げて居る。併しなから事實ではないか、隠蔽したから消滅するものではない。例へば辭茶の大混亂中に提燈を消しても、混亂は残る、否一層不安の狀

て居る。併し内地に國民地は、人文の度に於て聊か違ふ。内相が「今日の事實其ものが治安の妨害になる」といふ以上は、今日の内閣其のものも亦治安の妨害になる言はねばならぬ。記事差止めと同時に、内閣の行爲をも差止めねばならぬ。度を失つての處世はいへ、極端なる記事差止めは、世界の何處に見らるゝだらうか。

言論擁護 近畿新聞大會

内閣彈劾 近畿新聞大會

憲政布かれてより三十年未だ嘗て見ざる現内閣の專制的暴虐性は事毎に發揮せられしが今や言論に對する非法の抑壓然に甚だしく之れが爲めに生ずる社會の不安と危機との擁護に現内閣の彈劾を標榜して立てる近畿新聞社通信社大會の開催を見るに至れりされば十七日午後六時より會場なる大阪ホテルに召集するもの大阪市内各新聞通信社を始め神戸、京都、奈良、和歌山の各府縣に互りて總計五十三社百三十七名の出席者を數へ何れも寺内内閣稅政の罪を鳴らしつゝ、活氣を以て已に場に滿つゝ頓て六時四十分上野社長を推して發會の盟軍に説明したる後本社毎社長を座長に推して大會を開き、上野本社長を議長とす。大會の進行は、先づ新聞社の自由を擁護するに在り、一面官製の記事掲載を強ふるの何處までも官儀式であり

寺内内閣の非立憲横暴は其極に達し、全國に悲慘なる米騒動をも惹起するに至つた、然るに其の事相を報はんに爲す非立憲にも全國の新聞に之が事實を報道するの自由を奪はれし、此の事は實に非立憲極まる事、一般國民が危懼の念を起したのみでなく、我々同業者は實に憲法を以て保障されたる言論の自由を全く喪失したる次第であります、之を黙しては我々同業者の權威に關し、茲に驟起して言論の自由を擁護する次第であります。内務省は我々同業者の抗議に依り、禁止令を撤廢し、たゞいふもの、其の實非常に狡猾なる仕方、政府の便利になる範圍で騷擾事件を報道せしむるのである、一面禁止令を撤廢したのは自己の無責任を表白したのであります、一面官製の記事掲載を強ふるの何處までも官儀式であり

ます、而かも今回の米騒動は全く理窟の取れる内外政策の失策に基いたものであります。故に斯る國家及國民に有害なる内閣は一日も存立せしめてはならぬ、今日此席に御集ある近畿各新聞社各通信社代表諸君は誠同心愛同感の士に存じます、今夕の大會を組織して飽くまで目的を貫達せんことを期するのであります、是れ君國に對する我々の急務と考へます、是より開致致します云々

次で座長は大會議決文起草委員を指名して大阪毎日、大阪時事、朝西日報、大阪新報、神戸新聞、神戸又一名死の委員を推選するや委員は別室に退き協議の上左の決議文を起草し大毎の高石氏これを朗讀して場に諮り滿場急激の如き拍手の裡に異議なくこれを可決せり

寺内内閣は成立以來失政を重ねて引責するを知らず益々民心の不安

を助長し各地に流血の慘事を演出するの感擧を勃發せしめたり然も無策之を濟ふ能はず百方糊塗國民を愚にし言論報道の自由を奪ひて天下の耳目を蔽ひ更に其非を遂げんとす憲法の蹂躪權力の濫用此に至つて極まれりといふべし吾等之を坐視する能はず此に寺内内閣の非違を彈劾し其引責辭職を期し憲法の神聖言論報道の自由を擁護せんことを

右決議す
大正七年八月十七日

白虹事件の発生(大阪朝日新聞8月26日夕刊)

前日の集会終了後の食事会の様子の紹介

食卓に就いた来会者の人々は肉の味酒の香に落ちつくことは出来なかった。

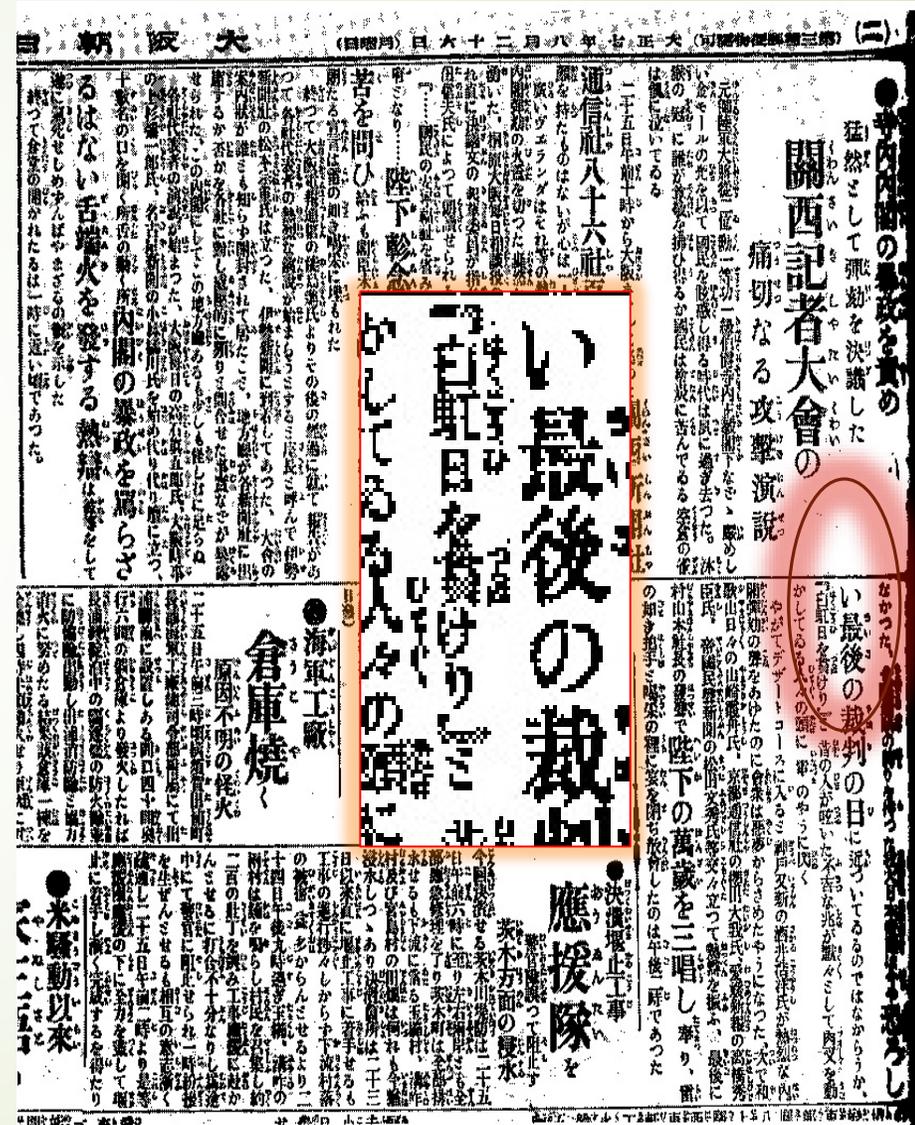
金甌無缺(きんおうむけつ)の誇りを持つた我大日本帝国は今や恐ろしい最後の裁判の日に近づいてゐるのではなからうか『**白虹日を貫けり**』と昔の人が呟いた不吉の兆が黙々として肉又を動かしている人々の頭に電のように閃く。(1918年8月26日大阪朝日新聞夕刊)

「白虹日を貫けり」とは
中国の古典『戦国策』の一節

「**「白虹」は武器、「日」は君主の象徴とされ、
臣下の白刃が君主に危害を加える天象とされた**」

(大辞林)。

「君主 = 天皇に危害が加えられる危機が迫っている」とも読める内容



白虹事件～朝日新聞の全面屈服

ウラで内務省
が動く?!

◎大阪府警→ただちに発売停止（行政処分）を命じ、さらに検察局に告発。
裁判所での司法処分を求める。

→天皇に対する「不敬」の可能性を匂わせる。

→司法処分の場合は発行禁止（新聞自身をつぶす!）の可能性も

◎右翼による村山社長襲撃事件の発生



朝日新聞の全面屈服 = 社長の辞職・鳥居ら関係者の退社、首相への謝罪

新たな「編輯綱領」発表

大物右翼・内田良平
の関係者
警察関係との連携も

新聞紙法

第四一条 安寧秩序を紊し又は風俗を害する事項を新聞紙に掲載したる時は、...に処す

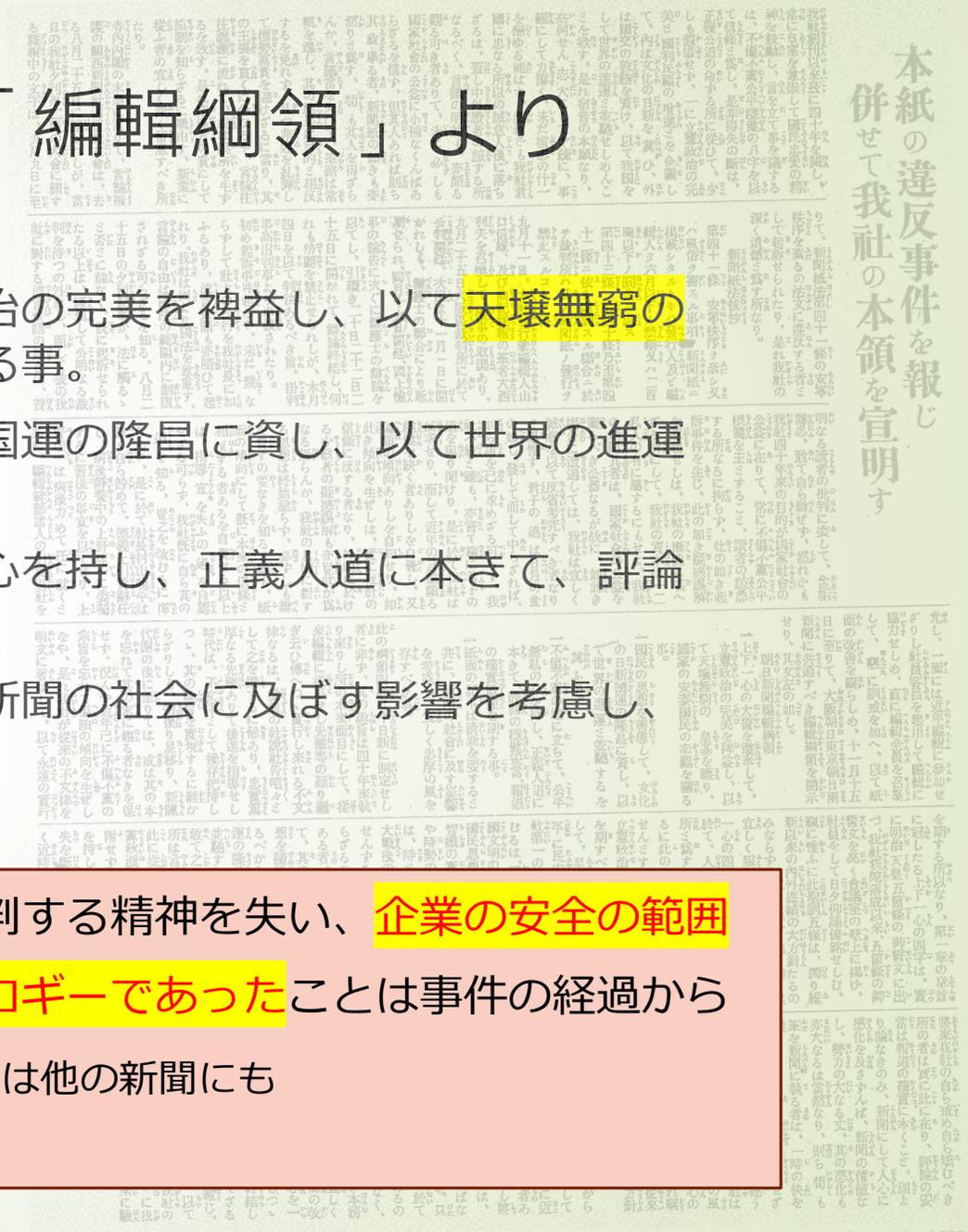
第四二条 皇室の尊厳を冒瀆し政体を変改し又は朝憲を紊乱せむしむるときは事項を新聞紙に掲載したる時は...に処す

第四三条 第四〇条乃至第四二条に依り処罰する場合に於いて**裁判所はその新聞紙の発行を禁止することを得**

「不偏不党」とは？～「編輯綱領」より

- 一 上下一新の大誓を遵奉して、立憲政治の完美を裨益し、以て天壤無窮の皇基を護り、国家の安泰国民の幸福を図る事。
- 一 国民の思想を善導して、文化の日新国運の隆昌に資し、以て世界の進運と並馳するを冀ふ事。
- 一 不偏不党の地に立ちて、公平無私の心を持し、正義人道に本きて、評論の穩健妥当、報道の確実敏速を期する事。
- 一 紙面の記事は清新を要すると共に、新聞の社会に及ぼす影響を考慮し、宜しく忠厚の風を存すべき事。

「不偏不党」とは権力に対し正面から批判する精神を失い、**企業の安全の範囲**
内での言論報道を行うメディアのイデオロギーであったことは事件の経過から
 明らかである。(有山輝雄) → 「不党不偏」は他の新聞にも



「白虹事件」以後の朝日新聞

①「不偏不党」の紙面

政府の許容する範囲での「不偏不党」「中立」

→「空気を読み」忖度する傾向に

「自らの内部に確固とした価値原理を持たず」判断の基準は他紙の動向に、内容は大きく、微細な点に違いを求める

②企業的新聞の全盛

販売店の困り込み、広告料の引き上げ（独占価格）、値下げによる他紙の圧迫

各種のイベント（中等学校野球大会、飛行機への投資）

朝日新聞Gと毎日新聞Gの全国二大紙と、「かつての小新聞の雄」読売新聞の三者体制に



中等学校野球大会・始球式での朝日新聞村山社長

Ⅱ、マスメディアによる大衆の国民化 ～「講談社」をもとに～

「大衆」の登場

階級、社会的地位、職業、学歴などの社会的属性を超えた異質な不特定多数の人々から構成された集合体である。お互いは未知な関係で、間接的・非人格的關係からなる匿名的集団。

①異質性 ②匿名性 ③非交流性 ④非組織性

日本でも大戦景気・第一次大戦後、とくに関東大震災後話題に



共同体的な結びつきを失い、孤立し孤独となった多様で分散的な傾向をもつ人々を再び結びつけるうえでメディアが大きな影響力をもつ

→ナショナリズムやファシズム、ポピュリズムなどの温床？



佐藤卓己『「キング」の時代』
(2002 岩波書店)

マスメディアの時代へ

背景：普通選挙制の実現＝大衆の政治参加による国民意識

「朝日」「毎日」二大紙による市場支配（100万部達成）

対象に分化した多様な雑誌の発刊

子ども向け・婦人向けなど

大日本雄弁会講談社『キング』出版...150万部突破

書籍販売の増加...円本の発行、「岩波文庫」の開始

←教育の普及＝活字メディアへのリテラシーの高まり

映画の発展...活動写真（無声映画）からトーキー映画に

レコード...1930年以後、急速な売れ行き、流行歌手の誕生

ラジオ放送の開始...1925年→戦争などと共に広がる

→文字に苦手な人々をも包含することが可能に



野間清治（1878～1938）

群馬県出身：講談社創業者、報知新聞社長。

群馬師範卒、東京帝大臨時教員養成所卒

明治40年東京帝大法科の首席書記に就任。

- ①M42年弁論を活字化した雑誌「雄弁」を発刊
- ②44年講談社を設立。同年「講談倶楽部」を発刊
- ③様々なジャンルの雑誌（「少年倶楽部」「面白倶楽部」「婦人倶楽部」「キング」）など相次いでを創刊。
- ④昭和5年レコード事業にも乗り出す
- ⑤報知新聞の社長に就任して再建を手がける。

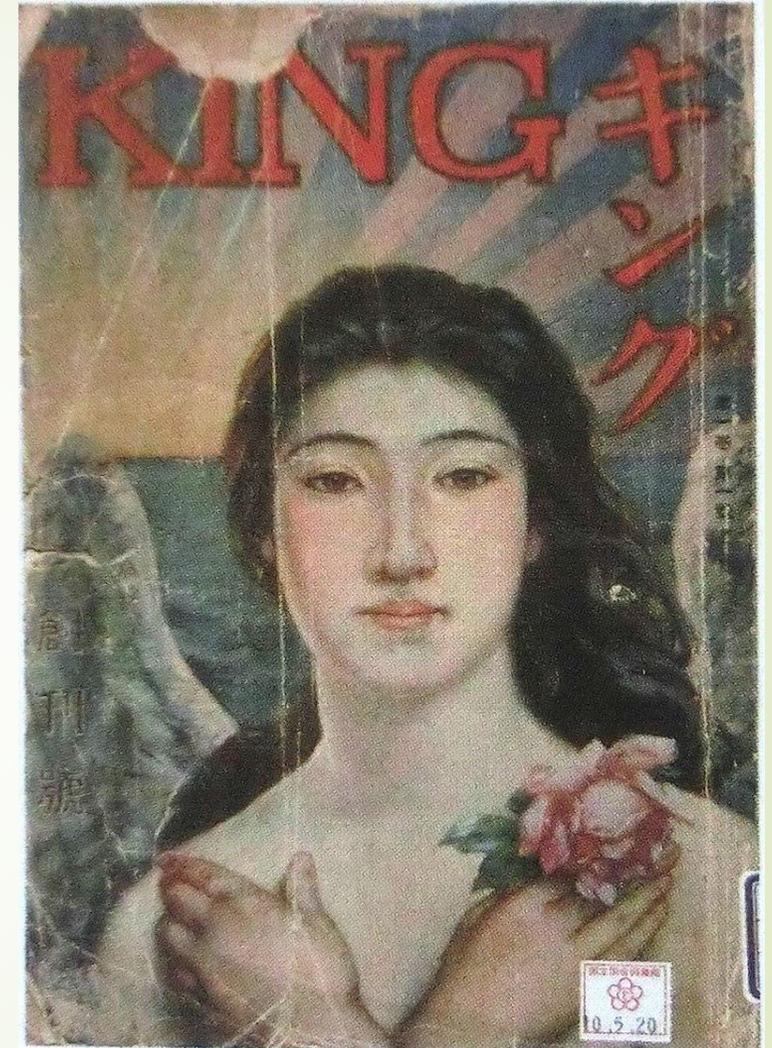


「キング」の発行～猛烈な宣伝戦

徹底的な宣伝戦...「**日本一面白い！日本一為になる！日本一の大部数！**」

- ①創刊20日前から4日ごとに全国の二百数十紙に全面広告が連続して掲載。
- ②「ダイレクトメール」...有力者や会社銀行へ約35万5千の封書と184万6千のハガキ
- ③書店へのアピール...2人一組の少年が訪問、のぼり旗の配布、電報をうつ。
- ④ビラの配布、ポスターの貼付...30余種類計7000万部
- ⑤パフォーマンス...コマーシャルソングと「踊り」をつくり、さらにレコード化
- ⑥風呂屋のポスター、チンドン屋

宣伝総額は38万円（初任給換算で150億円超）。



キング創刊号の表紙

国民雑誌「キング」のコンセプト

- 一、『キング』を読む人は楽しみながら**修養**ができる
- 二、『キング』を読む人は常識が発達し人中に出て**恥をかかぬ**。
- 三、『キング』を読む人は頭が磨け知らぬ間に**人柄が立派**になる。
- 四、『キング』を読む人は居ながら面白い**娯楽慰安**が得られる
- 五、『キング』を読む人は感奮興起し**立身出世**が得られる。
- 六、『キング』を読む家庭は**一家円満幸福**になる。
- 七、『キング』を読む**町村**は風紀が良くなり繁栄する。
- 八、『キング』は国民の趣味を高尚にし文化を盛にする。
- 九、『キング』は到る処**道徳**起り平和を齎す。
- 十、『キング』は世界から凡ゆ**悪思想を掃蕩**する。



「キングに階級なし」みるき画(『キング』1933年4月号奥付頁)

老若男女、一家団欒の席上、見て面白く、読んで面白く聞いてまた面白く、其知らず識らず、美風を養い、良俗を教へ、疲れ切った魂に一道の活気を注入し、倦み切った心に一服の靈薬を投与し、この国に生まれ、この国に育ち、限りなく生の喜びを享受せしめようとする道義的観念を含ませてみる。
明るく、温かく、柔かく、和やかに、だれでも一度手にしたら最後 もう何うしても読まずにおれぬ...という心持ちを起こさせる (以下略)

『キング』の記事と編集方針（大正15年）

『キング』 大正十五年5月号 目次

菊池寛曰く
「人の悪口を書かず
ほめすぎるくらひ人
を誉める」

具体的な政治問題
や社会問題、国際
問題などはあまり
でてこない。

小説など各種読み物
+
名士・偉人の立志伝
+
ユーモア・漫画など

修養・教養・努力・節制といった通俗道徳と立身出世にかかわるエピソードを中心に、笑い話なども含め、雑多で断片的な記事を約400ページの紙面にばらまく。

◎各種（十本）物語詩・短歌・漫画漫文・スポーツ・民謡・科学・

○（二段組）一筆書・結婚川柳・西洋ポンチ・笑い話・懸賞

お伽噺・講談2・落語1

小説（長編3・諧謔・家庭・武俠・滑稽・歴史2・

◎小説・読み物（十五本） 吉川英治・菊池寛・佐藤紅緑ら

○（二段組）兄弟出世競べ・早熟の天才・名優逸話・文壇ゴシップなど（十本）

◎立志伝・偉人伝（七本）品川弥二郎・児玉源太郎・東西逸話美談

○（二段組）特集関連・口絵のエッセー・詩（三木露風

・師宣伝（先生の思い出）（四本）野間・大学教授・前

（七本）政治家（清浦奎吾）・高級官僚（原

・グラフ・世界写真画報・アメリカ移民の

★愛読の金言名句修養訓

創刊号のもの

年齢・性別・職業・地位を超えた雑誌

二つの系列の一体化

大日本雄弁会 = 「為になる」伝記・格言・一行知識など

→立身出世をもとめる学生の雄弁文化

講談社 = 「面白い」読み物・踊り・歌・ユーモア記事

→庶民の満たされぬ欲望に癒やしを与える大衆文化

婦人雑誌の手法 = 多様な記事の羅列 → 興味あるものだけを見る

やすい価格（50銭） = 読み捨てればよい



分断されていた大衆文化を統一、「国民」化していく

『キング』 = ラジオ放送と共通した性格（「ラジオ的雑誌」!）



文字を得意としない人にとってメディア ～寄席・映画・レコード、そして「東京行進曲」

「大衆」の「多様性」→文字や関心に対するリテラシーの違い=多様な雑誌
文字を苦手とする人たちの世界

寄席 = 落語・講談・浪曲（浪花節）などの演芸、演劇

→「講談倶楽部」や「立川文庫」の世界

→**ラジオの可能性**→のち浪曲が人気番組の中心に

活動写真 = 「動く外国」「演じられた立川文庫」+弁士（講談・浪曲）

トーキー映画 = ことばを話す俳優たち・アメリカへの憧れも

「キング」など = 読み聞かせ文化の復活 = こどもが家庭で記事を読み聞かせる
漫画（岡本一平ら）なども充実

日本初の流行歌手 = 「東京行進曲」の大ヒット

キングの連載（菊池寛・作）→映画化（溝口健二：監督・日活）

→**主題歌（佐藤千夜子）のレコード大ヒット→ラジオで放送**

「東京行進曲」昭和3年6月号の大衆雑誌「キング」に連載された。この歌は、菊池寛の作詞、佐藤千夜子の作曲による。昭和3年6月の雑誌「キング」に掲載された。昭和7年3月のことであったという。写真は「キング」挿絵より。同志社大学蔵

ラジオの「同時性」が作る「国民統合」

①'27年2月 「大正天皇葬儀」のラジオ中継

厳かな音楽・哀調を帯びたアナウンサーの声

→ラジオから流される鐘の音と共に日本中の「国民」が黙祷し、「哀悼の意を示す」

②「御大礼奉祝番組」

東京出発から、京都での式典、帰京までを連日放送

式典に合わせて、全国七局をむすぶ全国放送網を完成させた

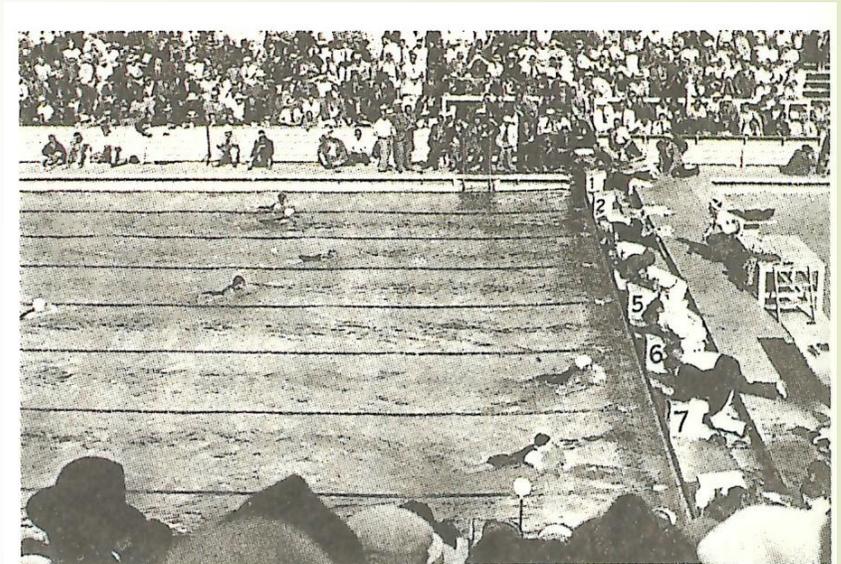
→「一生に一度か二度あるかないかの天皇の即位を同時性をもって体験できた」

③1936年、ベルリンオリンピック「前畑がんばれ！」

「この一瞬の放送こそまさにあらゆる日本人の息を止めるかと思うほどの殺人的放送だった」

(読売新聞) ←しかしリアルタイムで聞いたのか？

メディアでの「国民体験の神話」により、「大衆」は「国民」に統合されていく！



前畑がんばれ 200m平泳ぎの^{まえはたひでこ}前畑秀子は接戦のすえドイツ選手をおさえて優勝。ラジオに乗った^{かさい}河西アナウンサーの連呼が評判となった。

Ⅲ、満州事変とマスメディア

「白虹事件」以降の新聞

朝日新聞...政党政治や軍部批判・軍縮支持など「民本主義」的主張
→「張作霖爆殺事件」→真相を知りながら追求しようとしなない。

柳条湖事件発生（1931年9月18日）

→ラジオが第一報を速報
→新聞が朝刊で報道 = 関東軍の発表を鵜呑みにした内容

= 国民は誤った前提のまま、情勢を判断することに

朝日新聞の「変質」

「国家重大事に処し日本国民として...軍部及軍事行動に対しては絶対
批難を下さず、極力之を支持すべき」と社論を決定

以後、マスメディアは「忠誠合戦」を繰り広げ、その結果、
戦争に疑問をもつことは困難とされていく。



11 新聞の号外 1931年9月19日、「満州事変」勃発の翌日の大阪朝日新聞。

朝日新聞の「屈服」～「社史」にみる見解

「軍が独断で動き、政府が追認する。新聞も謀略を疑いつつ追認に加わ」った。（朝日新聞取材班）

朝日新聞には、内田良平や笹川良一らといった右翼が次々と訪訪緒方が陸軍省を訪ねるなど朝日側からも軍部とコンタクトをとる。陸軍省調査班も来訪する。

ライバルの毎日新聞などが朝日新聞は「反軍」とであると攻撃在郷軍人会などによる新聞の不買運動も始まる

朝日新聞社史の見解

「憲兵、警察、右翼陣営が一体となり、在郷軍人会をも動員して社屋攻撃を企てる場合、朝日新聞幹部には、対抗しうる自信はなかった」

「朝日は『報道第一主義』をとる近代的新聞で、社説とニュースとが密着していることに特色があった。紙面で伝達されるニュースと離れて、ひたすらに理想を追求するような言論は、すでに説得力を失う時代となっていたのである」



11 新聞の号外 1931年9月19日、「満州事

変 社説の翌日の朝日新聞

過熱する戦争報道～「同調集団の忠誠競争」

新聞...ニュース映画映写会・戦況報告講演会、「満州事変展覧会」の開催、大規模な慰問金・慰問文募集運動の実施

リットン報告・国連脱退...132の新聞。通信の共同声明

ラジオ...ニュースの回数の増加と臨時ニュースで戦況放送

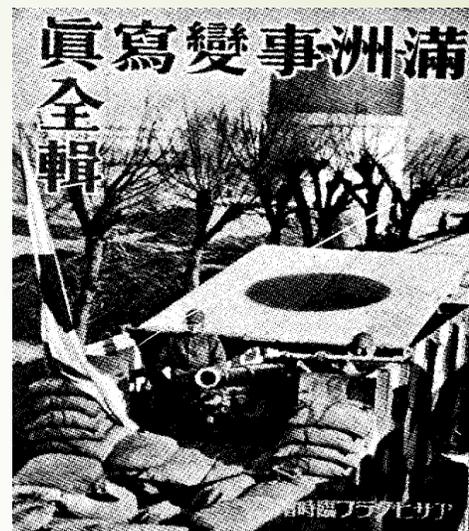
軍人など関係者による講演など→聴取者の増加へ

雑誌...満州事変記念特大号（少年倶楽部）記念絵はがき

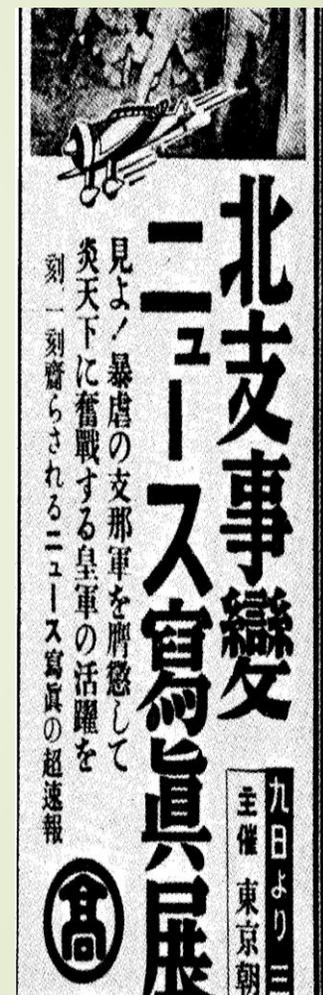
写真画報などグラビア、事変にかかわる美談

レコード...児童劇、軍国歌謡の募集とレコード化

こうした動きは決して強制されたものでなく、横並びのメディアによる「同調集団の忠誠合戦」のなかで生まれた現象であった。（有山輝雄）



街頭の慰問献金 銃後における国民の戦争協力として
られた。「満州事変」の軍事郵便用絵はがきより。



「肉弾三勇士」の神話～「同調集団の忠誠合戦」に

肉弾三勇士...満州事変から派生した上海事変の工兵の爆死事件

→メディアは「軍神」として礼賛

「帝国萬歳」と叫んで、吾身は木葉微塵、三工兵点火せる爆弾を抱き鉄条網に躍り込む（東京朝日）

- ①全国からの懸賞募集、詩人による
- ②「三勇士の夕べ」の中継放送、人形浄瑠璃、ラジオドラマ、琵琶の放送
- ③三勇士をテーマとした5本の映画の封切り公開
演劇・浪曲・講談・舞踊など
- ④国定教科書にも取り上げられる。



過熱する戦争報道～おわりに



メディアがつくる空気の中で、人々は自由に発言できずに同調を余儀なくされ、戦時体制が生まれていく。

参考文献

朝日新聞社『朝日新聞社史（明治編）（大正・昭和戦前編）』（1990～91）

有山輝雄『「中立新聞」の形成』（2008 世界思想社）

同 『近代日本ジャーナリズムの構造』（1995 東京出版）

同 「戦時体制と国民化」（『年報日本現代史第7号2001』）

有山他編『ジャーナリズム史を学ぶ人のために』（2004 世界思想社）とくに有山論文

佐藤卓己『「キング」の時代』（2002 岩波書店）

佐々木隆『日本の近代14メディアと権力』（1999 中央公論新社）

朝日新聞取材班『新聞と「昭和」』（2010 朝日新聞出版）

金沢敏子他『米騒動とジャーナリズム』（2016 梧桐書院）

早房長治『村山龍平』（2018 ミネルヴァ書房）